

## 「研究著書の概要」

NO.J2434

活動題目:性／生をめぐる闘争—台湾と韓国における性的マイノリティの運動と政治

所属:東京大学教養学部附属教養教育高度化機構D&I部門

氏名:福永 玄弥

本書は、台湾と韓国という東アジアの二つの社会における性的マイノリティ(LGBTQ)の社会運動に焦点を当て、「包摂」・「解放」・「権利」という三つの軸を通じて、その政治的闘争の複層性を描き出す試みである。リベラルな語りにおいて、マイノリティの権利拡張はしばしば「進歩」として語られるが、本書はそのような単線的な進歩史観を退け、制度化と抵抗、包摂と排除が交錯する運動の歴史を明らかにした。また、本書は性的マイノリティの制度的包摂にともなって発生したバックラッシュ(反動主義)も分析の対象とし、国内の保守政治とトランスナショナルな反ジェンダー運動(Anti-gender movement)の交差性という観点から検討しつつ、性的マイノリティ運動がこれらの右派・保守勢力と交渉する過程でラディカリズムからリベラリズムへと変質を遂げた過程も考察した。

本書の貢献は、クィア理論やフェミニズム、社会学(社会運動論、政治・宗教社会学)、地域研究(台湾、韓国、そして「東アジア」)、ポストコロニアル理論といった複数の学術的領域を横断しつつ、実証研究の手法を用いて、新たな研究テーマや方法の開拓に挑戦したところにある。また、フィールドワークや政策分析、言説分析など複数の手法を組み合わせることで、マイノリティの権利の制度化の過程に潜む暴力や排除のメカニズムも可視化した。

総じて本書は、「アジア的なホモナショナリズム」や「制度化の限界」といったテーマを深化させ、性的マイノリティの運動史を一つの国家内に閉じた視野に留まらず、トランスナショナルな視点で再構成することを試みた意欲作である。マイノリティの「生(life)／性(sexuality)」をめぐる闘争が決して一方向の「進歩」ではなく、常に対抗と葛藤、さらには予期せぬ帰結を伴うことを明らかにし、ジェンダー・セクシュアリティ研究の分野において新たな水準を切り拓いた著作である。